



新たなビジネスモデルのもと、13年ぶりに貨物専用機を導入

～パートナー企業との提携拡充で安定的な収益確保を目指します～

JALは、ボーイング767-300ER型機の貨物専用機(以下、フレイター)の3機導入を決定しました。自社貨物専用機を運航するのは13年ぶりで、2023年度末より順次運航を開始してまいります。



JALはこれまで、需要変動が大きい航空貨物事業において、旅客機貨物スペースに加え需要に応じて他社フレイターをチャーター運航する柔軟な事業運営を通して、確実かつ効率的に収益を確保してきましたが、貨物郵便事業の更なる成長を企図し、自社によるフレイター運航を決定しました。今般のフレイター導入では、新たなビジネスモデルを構築し、安定的かつ成長性の高い需要を確保します。また、2024年問題に起因する物流ニーズに対し、航空輸送力を強化し、物流を軸とした社会課題の解決に寄与します。

特徴①: 新たなビジネスモデルによる安定的な需要の取り込み

国内外のeコマース・宅配など、今後も高い成長が見込まれる貨物の取り込みに向け、物流企業と強固なパートナーシップを結び、安定的な需要をベースにしたネットワーク戦略を展開します。また、2024年問題を受け高まる国内航空輸送の役割を確実に担い、需要や市況変動による事業リスクの抑制を図ります。

特徴②: 国際線、国内線のハイブリッド運航で機材稼働率を向上させ、収益性を確保

2023年度末から東アジアを中心とした国際線の運航を開始します。将来的には国内線でも運航することで機材の稼働率を向上させつつ、貨物搭載率の最大化を図ります。加えて、顧客ニーズに応じてチャーター・臨時便を柔軟に設定してまいります。

【フレイター(*1)諸元】 (*1)JALが保有するボーイング767-300ER型機を改修

全長 / 全幅 / 全高	54.9m / 47.6m or 50.9m / 16.0m
最大搭載重量/ULD台数(*2)	【上部貨物室】 32t / パレット24台 【下部貨物室】 16t / パレット3台+コンテナ9台
巡航速度	862km/h
航続距離	10,460km

(*2)記載のULD台数は組み合わせの一例です

JALは、今後もさらなる貨物郵便事業の成長を通して、社会の持続的な発展に貢献してまいります。